梅檀

双葉南小学校だより
発行日2010,12,6
№　２２
発行責任者　末永幸弘

避難訓練

1日（水）今年二回目の避難訓練を実施しました。地震と火災を想定して避難し、その後、消防署員の方のお話を伺いました。「みなさん、これは何でしょう。」火災報知器の実物を見せて頂きました。命を守るのに大変優れているということを強調されていました。設置の義務化が進められています。

続いて、消火器の扱いについて訓練しました。六年生の代表児童が水消火器を使って、うまく的をめがけて放水し、的が回転すると大きな拍手が。

先週は、残念なことに学校火災が発生しました。12月に入り、学校でもストーブ等火器を取り扱います。十分に注意を払っていきますが、ご家庭でも、「火の用心」お願いします。

全校集会

今日の全校集会は、読み聞かせを行いました。本は、ＪＡさんからご寄付頂いた「いのちをいただく」という本です。

本書は「命と食」をテーマに講演を行う熊本県の食肉加工センターに勤務する坂本義喜さんの体験談を基にした絵本です。坂本さんは「牛を殺す」という具体的な事例を交えながら、「動物の命を私たちはいただき、生かされている」ことの意味を問い続けます。その講演録を、福岡県行橋市の助産師、内田美智子さんが物語り風にまとめ、佐賀県三瀬村の画家、諸江和美さんが絵をつけものです。

物語は、小学校の授業参観をきっかけに、坂本さんと息子のしのぶ君が食肉加工センターの仕事について語り合う場面から、牛の「みいちゃん」を同センターに運び込んだ女の子の家族と、坂本さんとの出会いへと展開します。

女の子と牛の別れの場面、そして、牛が加工され肉になった後、女の子のおじいさんが言います。「みいちゃんのおかげで、みんなが暮らせるとぞ。食べてやれ。みいちゃんにありがとうと言うて食べてやらな、みいちゃんが可哀そうやろ。」女の子は、自分と一緒に育った牛のみいちゃんの肉を涙を流しながら食べます・・・・

普段何気なく食べている食物も命であることを感じてくれたらとの思いで、読み聞かせました。少しでも給食の残菜が減る事を期待しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

前号で各作品展の入賞者を掲載しましたが、漏れがありました。お詫びして追加いたします。

防火ポスター

金賞　四年　横須賀　夏南
金賞　五年　松本　なつみ
銀賞　五年　明間　優斗
銀賞　六年　志賀　俊哉

ＪＡ交通安全ポスター

奨励賞　五年　一條　達哉

ＪＡ書道コンクール

奨励賞　六年　竹原　実来

「家庭の日」作品コンクール

絵画優良賞三年　芟花　瞭介

音楽祭三部（創作）

入選　六年　高倉　美智子
入選　五年　板倉　優圭
入選　六年　松井　遥
入選　五年　志賀　美咲
入選　五年　名兒耶　雅
入選　六年　高萩　琴巳

読書講演会

双葉町読書フォーラムが11月27日（土）志茂田景樹氏を迎えて開催されました。志茂田氏のネームバリューか、約１２０名参加いただきました。

講演会に先立って行われた「読書ふれあい五・七・五表彰式」に参加した児童、生徒も志茂田さんの語りを聞くことができました。

講演は、あれ程連日マスコミにお出になっていた志茂田さんが、どうして読み聞かせを始めたのかという動機から始まり、小さい頃のご自分の読み聞かせられ体験、感受性のお話、命の大切さ、そして「ぞうのこどもたちがみたゆめ」「ぽんちとちりん」の語り。

幅広い年齢層の聴衆だれにでも分かりやすい話で、90分があっという間でした。特に語りは、「想像しながらお聞きください。」の通り、巧みな語りで、はっきりと情景が目に浮かびました。「星々が象の鼻に渦巻きながら吸い込まれていく様子・・・」「小象の自立を願って去っていく母親象の姿・・・」「二匹の犬が最後に分かり合えた時に訪れる別れ・・・」

鈍くなった自身の感受性が蘇る様な、また、幼い頃に戻って母親に読み聞かせてもらっている様な感覚を覚えました。間といい、優しい志茂田さんの声といい、洗練された「語り」は圧巻でした。　また、身振り手振り、擬声音ありで一人芝居を見ているような気もしました。　参加者の皆様からは「読み聞かせの大切さを改めて学び感動しました。」「子どもから大人まで楽しめる講演会でした。」「心が豊かになりました。」の声が多数寄せられました。中には「新聞に広告を入れて、大勢の人に聞いてほしい。」「平日に開催して、子ども達全員に聞かせたい。」との要望もありました。

参加頂いた皆様、当日ご協力頂いた役員の皆様本当に有難うございました。

志茂田さんのブログより

福島県は会津、中通り、浜通りの３地域に分けられ、地元の人はそのように呼び習わしているのであります。浜通りは沿岸部を含む阿武隈山塊の東側地域であります。この地域にも原町市、飯舘村などへ何回か講演や、読み聞かせに訪れておりますが、２７日、数年ぶりに今度は双葉町に講演に訪れたのであります。

浜通りは福島県では温暖な地であります。快晴に恵まれ、風もなく、ブルゾンを着ていると、汗ばむほどの陽気でしたが、スーパーひたちに乗っても、上野駅から３時間弱、かかったのであります。お陰でツイートしたり、読書したり、日帰りながら小旅行気分に浸ることもできたのであります。

講演そのものは「平成２２年度双葉町子どもフォーラム」の記念講演で「子どもの心にロマンの森を」と題して行ったのであります。

その前に、読書ふれあい５・７・５（読書標語）の作品発表・表彰式が行われたのでありますが、この企画なかなかにワガハイの興味を惹いたのであります。

俳句形式で読書標語を家族ペアで募集したところが新鮮でありました。

一例紹介しますと、

ちいちゃんの　かげおくりを読み
なみだでる（小３女子）

これを受けて、

孫の読む　悲しい本に　ついホロリ
と、おばあちゃんが返しているのであります。

講演終了後、座敷の控え室で、茶菓をいただき、６、７枚、色紙を書いたのであります。

色紙へのサインは座敷のほうが心がこもるような気がしたのであります。